

研究構想図

～社会的な背景～

学習指導要領第1章総則においては、汎用的能力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが示された。AI技術などが日常生活に当たり前存在する変化の激しい社会では、言語能力や情報活用能力などの汎用的能力の育成が欠かせない。これらは、各教科等の学習の基盤となり、横断的な学習などを通して、育成を目指す必要があるとなっている。

～学校教育目標～

- ◎自ら考える子
- ◎心美しい子
- ◎たかましい子

～児童の実態～

- 多くの児童が主体的に授業に参加し、意欲的に学んでいる。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着は概ねできつつあるが、様々な知識や情報を関連付けて、生活や他の学習に生かせる児童が少ない。
- 1問1答の挙手率は高いが、自分の意見や感想を書くことや伝えることに自信がない児童が多い。

めざす児童像

低学年

自分の考えをもち、他者の考えをよく聞いて、伝え合おうとする児童。

中学年

既習事項を活用し、自分の考えをもち、他者の考えと比べながら深く考えようとする児童。

高学年

既習事項や他者の考えを取り入れることで、自分の考えを再形成し、新たなものを作り上げようとする児童。

主題設定の理由

- 変化の激しい社会を生き抜くには学習指導要領に示された3つの資質・能力が必要となってくるため。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着と学んだ知識及び技能を活用できるようにするため。
- 対話的な学びを通して、児童の思考力・判断力・表現力等を高め、学びが深まるようにするため。
- 自己の成長を自覚する共に、学びの過程で培った経験を活かし、次の課題解決に向かうようにするため。

研究主題

これからの社会を生き抜く 資質・能力の育成

～言語能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの推進～

研究仮説

言語能力を育むという視点でのカリキュラム・マネジメントに取り組めば、児童は、言語能力に関する知識及び技能を習得し、学ぶことへ興味や関心をもって他者と学び合うことにつながる。このことにより、これからの社会を生き抜く資質・能力の育成につながるであろう。

学びに向かう力・人間性等

主体的・対話的で深い学び

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等